

## 資料

# 治山と治水

正会員 橋内徳自\*

今より僅か數十年前遼西地區一圓が獨り蒙古民族の放牧地として開放せられし當時に於ては遼河の洪水被害は今日程甚大なるものではなく寧ろ河狀が自ら良好に保持せられ平水量多く遠く舟運の便が河口より通航を經て遼源迄も開け數萬の戎克船絡繹として遼下航し駁船を極めたのであつたが其の後漸次漢民族が蒙地に遷食し牧野を開きて農地と化し蒙人自身も次第に農耕の業を會得せしに伴ひ水源地一帶の草原は禿禿化せられ而もこれが銅鐵に依りて軟柔せられしたる雨水の調節作用を失ひ土砂流出を増大にし逐次平水量枯渇し水深遞減して今日の如き舟運衰微の因を醸するに至つたのである。

蓋しこれは河川が水源よりの始めて河口に至る迄連絡したる一脈の水として有機的なる限り水源の僅かの作済と雖も直接下流に及ぼす影響は實に大なるものにして、水源の荒廢はかく中下流部の荒廢を促助し互に因か果となり漸次河川の悪化を齎しむることを物語るものである。されば治水と云ひ治山と稱し共に河川全體より翻れば一元的施策にして中下流に於ける河川改修の實は上流域の治山即ち水源地の涵養に依りて始めて收め得るものと謂ふべく何れも水を治むる技術(タクミ)にして單に手段なり工法なり工事地域別等の異なることによりて斯くは名稱を附せしめるものと思料せらるゝのである。

元來我が國の河川は毎年確に一億三千萬圓を超ゆる水災を蒙り農本立國を以て立てる我が國農民を塗炭の苦に感し殊に近時農産物の増産農村振興等が重要國策として要請せらるゝの故此の根本対策は實に水を治め山を治むるの施策を第一義となすべきにして如何に沃土に稔れる農作物も一朝洪水氾濫により流失せられ或は流出土砂により埋没せられんには農産物の増産はおろか人家の倒

壊入畜の危害をも招き農山村被拂の主因をなすものである、而も我が國河川の如く四六時中濁水滔々として流れ上流よりの押送土砂多きため河道は常にこの流砂に依り埋塞せられ河床を隆起せしむるを以て流積は(水の流れる断面積)漸次縮減し從つて洪水位の上昇を促し洪氾濫の害を激増せしむる傾向顯著なるは他國にその比を見ず。

されば國民は河川が天與の資源たるを認識せず寧ろ河伯の伏殿として恐怖の念を有するが如きは實に王道國政の痛恨事と斷ぜざるを得ざるのである。

宜しく山地の崩壊を防止し地盤の修治を行ひ禿蕪の山野に植林して表土の流出を抑止し以て水源地の涵養を計り河川荒廢の素因たる流出土砂の抜本的阻止を講じ中下流の防水事業と併せ施行して河川を治むべきにして之れに依り國民が今日まで嘗めし河川との苦き鬭争を始めて根絶し河川をして天與の資源たらしめ得べく斯くの如きが樂土追放の基盤であり眞髓たりと信じて疑はず。

蓋し總ての國策的事業例へば開拓、生産、擴充、農產物増産、農村振興等の諸事業は河川の氾濫を芟除し河水を確保する所謂理水の基盤の上に立つにあらざれば眞に其の成果を收め得べくもなく理水は國土綜合開發計畫の核心をなし寧ろ政治の要諦たる所以のものにして、斯の古より讀へらる「水を治むるものは國を治む」の諺ばよく這般の道理を遺憾なく啓示するものと稱し得らるゝのである。

然るに我が國の理水施策を見るに堪讐なる構想の下に國家百年の大計に基き邇々ながらも建國以來中下流部の河川改修を起し漸く河川の局部的修治を行ひつゝありと雖も上流部に於ける治山即ち水源地の涵養は全く等閑に

付せられて居る結果上流水域の荒廢によりて發生する土砂が、中下流に押送せられ河道を埋塞して折角施した下流域に於る改修の効果が無効に歸せられんとする慮漸次濃厚化しつゝあり今にして砂防の重要性を認識し此れか施策を講ずるにあらざれば現に行ひつゝある治水計画に一大蹉跌を與ふるのみならず被砂防區域が多年放置せらる、によりて荒廢倍加しいざ修治の際には巨額の工事費を必要するに到るべきや明白の理である。

元來理水土斯くも重要な連鎖を有する砂防事業が充分認識せられざりし主因は未だ國民一般に砂防工事の理解に缺くる點と較もすれば他の一般土木事業執行の急務に迫られたること及び此の種工事が山間僻遠の地に介在し最も地味な事業なるため國民自身があまり留意關心せざりし點等列舉せらるべきにして今日より國民運動の一として山野に對する愛護の念を喚起せしめ苟しくも未梢的利益に走り山野を隨りに開墾し森林を斫伐して水源を

荒廢せしむるが如き者は國民更生上の無賴仇讐の徒とな  
すが、ゆく教導指向せしむべきである。

最後に繰越し附言せんに治山即ち砂防施設は治水と不可缺關聯を有し河川改修の永久的效果を保持せしめ且水災の防止輕減に重大なる役割を演ずる公共事業の一に徹して一國の盛衰は山野の興廢を以てすと稱せられこの適例は敢へて遠き外國に求めずとも接壤地朝鮮の實例にし充分認知せらるべく今日より直に山野愛護の自興運動を進め從來行はれし跛行的治安事業に治山を取り入れ國土の保全に資し綜合立地計画の一基範たらしめ國家的生産の基底施策となすべきである。

やがて此の意圖のもとに涵養せられし山野は清鮮なる  
綠影天地を覆ひ河川は清冽激渾の流れ天地に連り、而も  
天與の資源として剩す所なく利用し得、禹王の聖代再現  
するに於ては誰か後世御代の榮を讃美せざるもの無から  
んや。

本店 奉天市大和區加茂町第十六號  
支店 新京特別市大同大街三〇二號

株式 會社 滿洲大林組

取締役社長 大林義雄

常務取締役 高橋誠一

出張所 大連、鞍山、牡丹江、哈爾濱、錦州  
安東、吉林  
工場 奉天、大連、牡丹江